

2020 年度前期第一回北海道大学大学祭全学実行委員会

第三部:新型コロナウイルスに対する実行委員会の方針決定

議事要旨

文責:会計 金子宗弘

本文書では以下の略称を用いる。

参加者の略称:

長(実行委員長)

榆(榆陵祭代表)

薬(薬学祭代表)

理(理学祭代表)

IFF(International Food Festival 代表)

農(農学祭代表)

工(工学祭代表)

医(医学展代表)

獣医(獣医学祭代表)

歯(歯学祭代表)

その他の略称:

実委(会議たる北海道大学大学祭全学実行委員会の名称)

事務局(北海道大学大学祭全学実行委員会事務局)

実行委員長による経緯・今後の予定説明

① 経緯

(1) 大学当局による学生団体の活動自粛要請

3月4日 公認学生団体宛に3月19日までの活動自粛・学務部所有施設の活動目的利用禁止の通達

3月18日 公認学生団体宛に上記措置を4月14日まで延長するとの通達

4月1日 公認・非公認問わずすべての学生団体宛に上記措置を5月10日まで適用するとの通達

(2) 北大祭開催についての大学当局との折衝

当局(長谷川理事) 六月開催は困難とするも秋の2日間開催には積極的
GW開始までに六月開催の可否を決めたい

実行委員会役員 意見集約ができていないため選択肢を残す方針

六月開催は無理としても中止は避けたい

秋開催であっても3日間、或いは設営のための前日を午後休とした2.5日間の確保を求める

② 今後の予定

(1)六月開催を論ずる段

第一回・第二回実委にて六月開催可否を決する

A: 六月開催に踏み切ると決定した場合

大学当局との折衝で認められれば開催、認められなければ秋開催で交渉

B: 六月開催を自粛すると決定した場合

秋開催を目標に当局と交渉

(2)秋開催を論ずる段

当局に対し秋開催を求めて交渉

C: 当局に秋開催を認められた場合

その後の実委にて開催可否を論じ、秋開催か中止かを決定

D: 当局に秋開催を棄却された場合

第62回北大祭は中止とする

③六月開催の利点・欠点

(1)利点

3日間の日程を確保できるため、理念を完遂できる

従来通りのため設営・撤収など様々な点で運営が容易

(2)懸念点

感染拡大の可能性が高い

地域住民からの理解が得られず、来場者数が減少する可能性が高い

マイナスイメージによる広告費・賛助や当日の企画収入の大幅減が想定され、財政状況に起因する次年度以降の規模縮小がほぼ確実

意見・質疑

長： 説明をもとに各祭内で話し合ってもらい、全体に共有したい意見・疑問点があれば言ってもらおう。

工： 六月開催可否の決定は4月9日の前期第二回実意で行うということか。

長： 実行委員会側の開催可否決定は今回か第二回で行う。今回結論が出ない場合、各祭内で意見を集約する場合は第二回に持ち越す。

工： 実委にて六月開催自粛が決まった場合、大学当局との相談なく六月開催を中止するということか。

長： 六月の自粛を決めた場合、秋開催に絞って当局と交渉することになる。

医： 秋開催とは具体的にいつ頃を想定しているか。

長： 夏休み明け以降の準備期間確保、積雪への警戒から秋開催は10月中旬から11月下旬を見込んでいる。

医： 金葉祭と時期が被る恐れがあるがどう対応するか。

長： 金葉祭の日程は開催直前に決定するため、北大祭の日程を確保したうえで被る場合は金葉祭側と協議し、共催や金葉祭の日程変更などの対応を決める。

農： 一年生の授業が5月11日となったため一年生の参加を考えると六月開催は難しい。秋開催についても必ずしもできるかは不明のため、いったん秋開催を仮決定したのちに2020年の北大祭開催自体の中止を決められるようにすべき。

長： 秋になっても新型コロナウイルスが収束する見込みはないため、当局と交渉して秋日程を確保したうえで

実委にて中止すべきか否かを議論していく。

各祭毎の意見・決議

長： 各々の各祭から六月開催の是非とその理由を述べてもらう。

榆： 榆陵祭としては六月開催には反対する。

理由は二つある。一つは従来企画スタッフを募っていた新入生オリエンテーションが中止になり、一年生団体が参加できないため。二つ目は従来 4,5 月で行っていた参加団体向けの説明会が日程の都合上開催できないため。

薬： 薬学祭も六月開催に反対する。

薬学祭は公開実験などで親子連れが多く来るが、新型コロナウイルス感染への責任を負えないため。

理： 理学祭も六月開催に反対する。

東京オリンピックのマラソンや YOSAKOI ソーラン祭りなどほかの多くのイベントも中止・延期になっている。六月には状況が収束している可能性もあるが、現時点では取りやめておくべき。

IFF： IFF は六月開催に反対する。

六月開催のためには来週には会合を開かねばならないが、そこで必要な人数が集まらない可能性があるため、また食品提供をメインとしており、新型コロナウイルスの流行が収束しない間は感染拡大のリスクが拭えないため。

農： 農学祭自体はどちらでも構わないが、来場者に様々な感染対策を要請し条件をつけたうえで来てもらうのは大学祭の雰囲気として似つかわしくないため六月開催に反対する。

兼任している全学新歓の立場からも述べると、榆陵祭同様一年生のクラスオリエンテーションが無くなって難儀しているため、実委としても当局に一年生を集める機会を作れないか交渉すべき。

工： 工学祭としても六月開催に反対する。

様々なイベントが自粛する中で六月開催はすべきでない。また工学祭は開催可否自体未定であるが、時間の都合上出展してもらう研究室との連携も難しく六月では開催できない。

医： 医学展は六月開催に反対する。

医学展は幅広い年齢層が来るが、感染リスクに配慮したうえで開催するのは難しいため。

獣医： 獣医学祭も六月開催に反対する。

獣医学祭は地域の方向けのイベントが多く、現状ではあまり参加が見込めないため。

歯： 歯学祭は六月開催に反対する。

歯学祭には屋内企画と模擬店があるが、歯学部との交渉の結果屋内企画は無くなり、また模擬店を出す部活の新歓が遅れる都合上六月時点では模擬店を出せないため、六月開催はできない。

長： 各祭は全て反対のようなので、第二回に持ち越すことなくこの場で採決する。

**議案「実行委員会として、第62回北大祭の六月開催を自粛する」賛成9票、反対0票、棄権0票
承認多数につき議案成立**

長： 外部への公表は当会の議事要旨(本文書)の公式ウェブサイトでの掲示とSNSでの告知を以て行う。
当局に対しては4月13～15日の期間に実行委員会として六月開催を断念する旨を伝える意見交換会を行うので、その場で秋の3日間開催を第一目標として交渉を進める。